

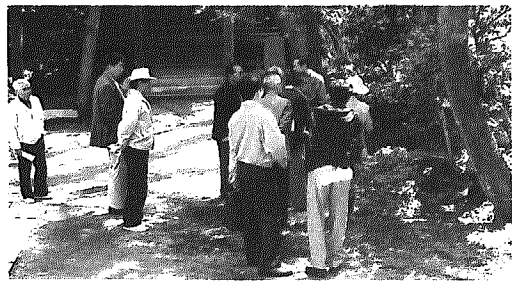
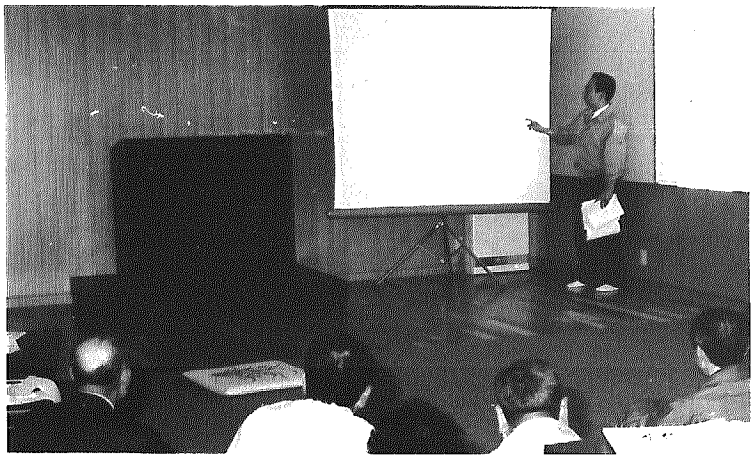
# ふるさと・木場の歴史を学ぶ

## 町史巡回講座in木場

5月16日(日)

その土地に住んでいながら、その土地の歴史は以外と知らないもの。でも関心がある、という皆さんに知っていただくとうと、町史巡回講座が開かれました。第一回は木場。史跡めぐりや講演、映写会などを行いました。木場の意外な一面を参加者は知ることができたでしょうか。

町では現在、町史の編さん事業を進めています。町民の皆さんにも地域について関心を持っていただき、地元歴史を知っていただくとうと、町史巡回講座を計画しました。



上/スライドで古文書を解説 下/満行寺で仏足石を見る

第一回は、五月十六日(日)、木場で開きました。

午前中は、史跡巡り。満行寺、北陸自動車道の下になってしまった大墓遺跡、木場八幡宮を徒歩で訪問しました。途中、満行寺では住職のお話のほか、木場出身の自由民権運動家・山際七司について横山真一さん(前黒崎高校教諭、町史自由民権部会長)の講演を聞きまし(要旨を次ページに掲載)。

午後は会場を木場多目的施設に移し、まず昔の蒲原地方のようすを記録した映画「芦沼」を上映。ついで丸山和五郎さんによる「農地改革と松村農相の来村」、青木宏さん(町史編さん室嘱託)による「風雲越後木場城」の講演を行い、その後、町史近世部会員四人がスライドを使って木場に関係する古文書の解説や木場の歴史についてのクイズを行いました。

この講座は、今後も町内各地で開催する計画です。開催の際は、ぜひご参加下さい。

なお、黒崎町史は、町制施行二十周年事業の一環として今年度中に『資料編三 近代』と『資料編五 自然』の二冊を刊行する予定です。問い合わせは、役場総務課 町史編さん室(☎三七七一一一〇一内線二三三)まで。

### 松村農相の来村と農地改革

丸山和五郎(木場在住)

松村農相が来村したのは昭和二十年十一月十八日でした。稲の収穫がちょうど終わった時期です。来村の目的は、なんとかして農民の皆さんからできるだけ米を出してもらいたい、日本は大変な時期に直面しているのだから、ということでした。同じ年の九月初めに社会党の浅沼稲二郎も供米の懇請に黒崎を訪れていました。

私はまあ百姓のアンニヤでしかなかつたのですが、友達に誘われ、いばる機会があるみたいなので、農相に質問しようと思ってみました。

さて、会場ではこう言いました。「これまですべて日本が勝つために米を供出してきた。それで米に大根・ナツバを混ぜて食べてきた。一番まずかった、屑米を粉にしてイモとこね混ぜて蒸したのも食べた。今まで国・軍にだまされ、利用されてきたのだから、自分のとつたものは自由に売りたい。が民族のためもういっぺん犠牲にならんば、と覚悟した。」それから、こう質問しました。「ところで、占領軍は農村の民主化のため、農地解放して封建制を脱却し、日本を完全な民主主義国家にしないてはならないと考えている。」

### 山際七司の生き方と現代

横山真一(町史自由民権部会長)

なぜ、山際七司なのか? 木場の生んだ偉大な政治家ということもあります。巷のニュース・新聞での政治家の評判はよくないようですが、一一〇年ほど前に政治を志し、国のために働いた多くの人たちがいました。純粋に国・地域のことを考えて、自分の財産・生活をかけ行動したのです。こうした人たちのことを学ぶ意義は、今こそ重要だと思います。そして、もっと調べて若い人たちに語り継ぎ、伝えていく必要があると思います。



満行寺本堂で山際七司について語る横山さん

七司は嘉永二年に生まれ、その四年後にペリーが来航、というように混乱した時代です。そうした中で名主としての仕事を継いでいくわけですが、幕末までの注目すべき活動としては、戊辰戦争では新政府軍ではなく幕府側として参加し、出雲崎で戦って負けています。明治三年には、同じ藩のままにしてほしいとあって、数日間拘禁されています。幕末から明治初めにかけて、明治政府に同調するのではなく、江戸時代の流れに立っていたと確認できます。

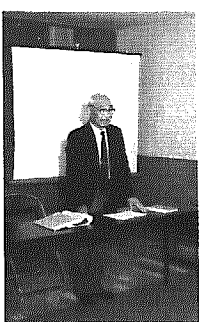
このあと村の仕事を手長として続けていくのですが、大きく変わっていった時期は明治十二年です。県会が開会し、県下全域から

豪農・地主らが一同に会し、県について議論していました。そこでいろいろな人と知り合い、そのつながりの中から自由民権運動に参加していくようになったようです。翌十三年が自由民権運動開始の年なのですが、どうしてそんな運動が起こったのかというと、まだ国会も憲法もなく、国の基本方針が決まっていなかった。そこで、国民の側に立ってどういったものを作ろうというのが、自由民権運動でした。千葉県の桜井静が、政

なるのです。国の方針をまとめてくれという請願書を二回出しましたが、その際、東京に行って各地の民権家と交わりを持つようになり、県内では小柳卯三郎が中心となっていました。彼とも連絡しあつて運動を進めました。その後、七司は自由党の幹事になっており、有能な活動家と認められていたようです。新潟でも北辰自由党を作りました。また、高田事件・大阪事件にかかわり、監獄に二年つながられることもありましたが、よくしようと請願書を出したということもあります。

晩年はそれまでの仲間とたもとを分かつて国の独立・権利を優先させた方がいいのではという考えに変わっています。この辺の動き・事情がよくわかりません。もう少し調べてみる必要があります。

ところで、木場での七司の動きとなると、その時期の資料がありません。ですから、ぜひ皆さんから教えていただきたいと思えます。またこうした活動も山際一人で行っていたわけではありませんが、山際武治や秋野左門、ほかにも地下で支えていたひとたちがいて、ほとんどという人がわかりません。そうした人たちが活躍していることによつて民権運動に対する見方が豊かになっていくのではないのでしょうか。



熱弁ふるう丸山さん

### よひめきクイズ二〇〇年に聞きました。

講座の最後にやったクイズ(全七〇問)の一部を紹介します。〇×で答えてください。答は九ページ欄外にあります。

- ①現在、東京都にも木場という地名があるが、黒崎の木場の方が古い?
- ②明治の町村合併で村名となった「黒崎」という地名は、すでに江戸時代の中ごろから記録に現れている?
- ③江戸時代の木場では何年かごとに「くじ」で自分の耕す田畑を替えるならわしがあった?
- ④江戸時代の中ごろ、木場を受け持つ大庄屋は、木場村ではなく、味方村に住んでいた?
- ⑤幕末ころ、木場の庄屋は「サムライ」でもないのに腰に刀を差してもよかった?
- ⑥水戸黄門が生まれたころ、木場は天領だった?
- ⑦かつて刈り取った稲などの運搬には荷車を置いていた?
- ⑧自由民権運動で有名な山際七司と板垣退助、山際七司の方が若い?
- ⑨江戸時代、傘はぜいたくな品物であった?
- ⑩一八一五(文化二)年ころには畑にはまだ麦は植えられていなかった?
- ⑪幕末の木場は大豊作続きで、米を借りることはなかった?
- ⑫第二次征長戦争の際に、木場まで幕府は兵士を集めに来た?
- ⑬一七九一(寛政三)年ころ、木場村には清酒業者がいた?